

バクー案内

2023 年 2 月

在アゼルバイジャン日本国大使館

【お願い】

本案内は各種 HP、一般公開情報、館員の把握情報に基づき作成したものです。各情報は変更されている場合がありますので予めご了承ください。また、本案内は私的利用の範囲内で利用し、無断転載・複製等のご遠慮下さい。内容に関して加除修正すべき事項がある場合は、在アゼルバイジャン日本大使館までご連絡いただきますようお願い致します。

在アゼルバイジャン日本国大使館
Embassy of Japan in Azerbaijan

Hyatt Tower III, 6th floor, Izmir Str. 1033,
Baku, AZ1065, Republic of Azerbaijan

週休日：土曜・日曜

開館時間：9:00～17:45（13:00～14:00 昼休み）

電話：+994-12-490-78-18 or 19

FAX：+994-12-490-78-17 or 20

休日・夜間緊急用連絡先：+994-50-222-8063

目次

I	概要	1
II	当館休館日	1
III	一般案内	2
	1 アゼルバイジャン概要	2
	2 アゼルバイジャン略史	2
	3 バクー概要	2
	(1) 気候	
	(2) 言語	
	(3) 宗教	
	(4) 両替	
	(5) 郵便	
	(6) インターネット	
	(7) 公共交通機関	
	(8) 国際電話	
	(9) チップ	
	(10) 水	
	(11) 電圧	
	(12) 航空便案内	
IV	観光案内	6
V	ホテル案内	14
VI	アゼルバイジャン料理	15
VII	レストラン案内	16
VIII	お土産案内	17
IX	アゼルバイジャンの著名人・小話	18
X	注意事項	20

I 概要

- 正式国名 アゼルバイジャン共和国
- 国土面積 86,600 km²（日本の約 4 分の 1、北海道とほぼ同じ）
- 首都 バクー
- 人口 1020 万人（2021 年：国連人口基金）
- 主要民族 アゼルバイジャン系（91.6%）
レズギン系（2.0%）、アルメニア系（1.3%）
ロシア系（1.3%）、タリシュ系（1.3%）等
（2009 年：アゼルバイジャン共和国国家統計局）
- 宗教 イスラム教（シーア派が多数）
- 言語 公用語：アゼルバイジャン語
- 通貨 アゼルバイジャン・ニューマナト（AZN）
- 日本との時差 -5 時間（サマータイムなし）

II 2023 年 在アゼルバイジャン日本国大使館の休館日

1 月 2 日（月）	年始休暇
1 月 3 日（火）	年始休暇 振替休日
1 月 20 日（金）	全国民服喪の日
3 月 20 日（月）	ノヴルーズ
3 月 21 日（火）	ノヴルーズ
3 月 22 日（水）	ノヴルーズ
4 月 21 日（金）	断食祭
4 月 24 日（月）	断食祭 振替休日
5 月 29 日（月）	共和国記念日 振替休日
6 月 26 日（月）	国軍記念日
6 月 28 日（水）	犠牲祭
6 月 29 日（木）	犠牲祭
11 月 8 日（水）	第 2 次カラバフ紛争戦勝記念日
11 月 9 日（木）	国旗の日
12 月 29 日（金）	年末休暇

Ⅲ 一般案内

1 アゼルバイジャン概要

4 世紀頃キリスト教が導入されたが、7 世紀にアラブの侵略に遭い、イスラム教への改宗が進んだ。13 世紀頃、トルコ系民族の中央アジアからの移住により、現在のアゼルバイジャンの原型が形成された。16 世紀以降ペルシアの支配下に入るが、1828 年ロシア帝国とペルシアの間でアゼルバイジャンを北部（現在のアゼルバイジャン）と南部（現在のイラン北部）に分割する国境線が決定され、ロシアの支配下に入った。ロシア革命後の 1918 年、一時的に独立したが、1920 年に赤軍によりソビエト政権樹立。ソ連崩壊後 1991 年に再び独立し、現アゼルバイジャン共和国となった。1980 年代後半から続くアルメニアとのナゴルノ・カラバフ紛争は、2020 年に再び大規模な軍事衝突に発展。現在は同年 11 月のロシアの仲介による停戦合意の下、現在はロシア軍の平和維持部隊が駐留し停戦状態が維持されている。

2 アゼルバイジャン略史

B.C.2 世紀末	カフカス・アルバニア王国が現アゼルバイジャンの地域に建国
3-7 世紀	サーサーン朝ペルシアの支配
7-10 世紀	アラブ系ウマイヤ朝・アッバース朝の支配 ※シルヴァンシャー王朝は地方政権として、861 年から 1539 年までバクーを支配
11-13 世紀	テュルク系セルジューク朝の支配
13 世紀	モンゴル帝国領に編入、イル・ハン国の支配（テュルク化の進行）
16 世紀	サファヴィー朝の支配下に入り、シーア派を受容
16-19 世紀	イランのサファヴィー朝、カージャール朝による支配
1813-1828 年	ロシア・イラン戦争の結果、講和条約により北アゼルバイジャン（現在のアゼルバイジャン領）がロシアに併合
1918 年	アゼルバイジャン人民共和国独立宣言
1920 年	バクーにソビエト政権樹立、アゼルバイジャン・ソビエト社会主義共和国成立
1922 年	ジョージア・アルメニアと共にザカフカス社会主義共和国を形成 ソ連邦結成に参加
1936 年	アゼルバイジャン・ソビエト社会主義共和国として連邦に加盟
1988 年	同共和国内のナゴルノ・カラバフ自治州においてアルメニアへの帰属替えを求めるアルメニア人の運動が高揚し、スムガイト事件が発生
1989 年	共和国主権宣言
1990 年	黒い一月事件（ソ連邦中央によりバクーを軍事制圧）
1991 年	「アゼルバイジャン共和国」に国名変更、共和国独立宣言

3 バクー概要

首都バクーはペルシア語で「風の街」を意味するとされ、現在はアゼルバイジャン共和国の首都として人口 200 万人以上の大都市を形成している。街の歴史は古く、シルヴァン王朝（9～16 世紀）の初期には港町として知られ、その後期には都として栄えた。

19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、バクーは帝政ロシアの支配のもと、世界の原油産出量の半分以上を誇る一大油田地帯となり、人と金が集中して世界的な大都市へと急速に発展していった。そのため、街は国際的な性格を強く帯び、現在でも街並みは他の地方都市とは全く異なる雰囲気をもっている。

2006 年以降、石油収入で国全体が潤い、街全体のインフラ整備が行われた他、大型商業施設等も建設された。

(1) 気候

1 年を通じて強い風の吹く日が多く、気候はその風に大きく左右される。夏の気温は 40℃を超えることもあるが、日本に比べると湿度が低く、前述の風もあって比較的過ごしやすい。一方、冬の気温は 0～10 度程度ではあるが、強い風の吹く日は体感温度がかなり低くなる。気候は概ね穏やかで、春秋は短いが四季の区別がある。

(2) 言語

公用語はアゼルバイジャン語(テュルク語系)であるが、ソ連の構成国であったこともありロシア語を話す人も多く、都市部では若年層を除きロシア語がよく通じる。また、アゼルバイジャン語に近いトルコ語もある程度通じる。一部エリート層を除き英語の通用度は低い。

(3) 宗教

宗教はイスラム教が 95%(うちシーア派 65%・スンニ派 35%)と多いが、ソ連時代を経験しているためかイスラム色は薄く、酒類も街中で広く販売されており、レストランでの飲酒も問題ない。また、モスク等の限られた場所を除いて、女性の服装も自由である。

(4) 両替

米ドル、ユーロ等の主要通貨の両替は銀行や一部ホテル等で可能である。日本円の両替は一部の銀行、両替所に限られるので注意が必要。(International Bank of Azerbaijan では円の両替が可能。)また最近、数は限られるものの ATM が市内各所に設置されており、クレジットカードによるキャッシングも可能である。

【換金レート】

(令和 5 年 2 月現在)

※1 マナト=100 ガピック

1 マナト	約 75 円
	約 0.59 ドル
	約 0.53 ユーロ

(5) 郵便

切手は市内数ヶ所にある郵便局で購入可能である。郵便ポストは郵便局内にのみ設置されている。日本までの送料は、ハガキが 60 ガピック、封書は 70 ガピックから(重量によって異なる)。ただし一般郵便は日数を要し、紛失等の可能性もあるため、重要な物品、書類については高額ではあるが EMS や DHL を利用することが望ましい。

(6) インターネット

多くのホテルや飲食店にて Wi-Fi の利用が可能。

(7) 公共交通機関

＜バス・地下鉄＞

バスと地下鉄は共通の磁気カード(Baki kart)を使用し乗車する。カードは、各バス停に設置されている端末か地下鉄の窓口で購入及びチャージができる。デポジットとして 2 マナトが必要。端末ではお釣りがでない場合があるため、少額紙幣を用意する必要がある。乗車料

金は距離によらず 1 回 40 ガピック(路線によってはこれよりも高い)である。バスでは、乗車時に運転手席横に設置された機械にカードをかざす。

地下鉄の待ち時間は平均 5 分程度。駅の入口には警官がおり、手荷物検査をされる場合がある。

<タクシー>

◆メーター制タクシー (「ロンドンタクシーTX4」タイプ)

①紫色の車体(無地):基本利用料金1マナト

10km 未満:0.7 マナト/km 10~20km:0.5 マナト/km

20km 以上:0.2 マナト/km

②紫色の車体に黄色の格子模様:基本利用料金 3 マナト

3~10km 未満:0.7 マナト/km 10km 以上:0.4 マナト/km

◆メーターなしのタクシー

①白タク

料金はタクシー運転手との乗車前の交渉次第。料金の目安は、市内の移動は昼間 4~6 マナト(2.5~3.8 米ドル程度)、夜間 5~10 マナト(3.1~6.2 米ドル程度)である。外国人にはそれ以上請求してくる運転手もいるが、払う必要はない。

②配車アプリ(Bolt、Uber、189Taxi)

目的地をアプリ上の地図で指定することができ、料金もアプリ上で事前に算出されるため、運転手と言葉が通じなくとも利用できる。在留邦人の間でも利用率が高い。支払い方法は、アプリ上でクレジットカードあるいは現金払いを選択することができる。

③電話

電話(189 等)で呼び寄せることもできる。行き先を電話で伝えることであらかじめ料金を知ることができ、比較的安価である。ただし通話はアゼルバイジャン語またはロシア語となり、英語は通じない場合が多い。

タクシー利用時は、バス同様に釣り銭がない場合が多いため、小額紙幣を多めに準備する必要がある。運転手に英語が通じないことがあり、以下のアゼルバイジャン語の数字を覚えておくと役に立つ。

1=ビル	2=イキ	3=ウチ	4=ドルト	5=ベシュ	6=アルトゥ
7=イエッディ	8=セッキズ	9=ドッグズ	10=オン	15=オンベシュ	

(8) 国際電話

国際電話は基本的に電話局と外国人のよく利用するホテルで可能。

「国際電話識別番号(00)」・「相手国番号」・「最初の0を除いた地域番号」・「相手先の電話番号」の順にダイヤルする。(ホテルからの場合、最初に外線発信番号の有無を確認する。)

日本への国際電話:

00-81(日本の国番号) - 最初の0を除いた相手先の電話番号

[例] 東京(03)1234-5678 へかける場合 → 00-81-3-1234-5678

国外からアゼルバイジャン国内への国際電話は、「国際電話識別番号(欧州:00、米国:011、日本:010)」・「アゼルバイジャンの国番号(994)」・「最初の0を除いた地域番号」・「相手先電話番号」の順にダイヤル。

アゼルバイジャンから日本への通話料金は、固定電話からでも携帯電話からでも約 0.2 米ドル/分程。

(9) チップ

本来アゼルバイジャンにチップの習慣はないが、石油資源開発に伴う欧米人の流入以降、外国人がチップを支払う習慣が根付いてきた。請求額にサービスチャージが含まれている場合は支払う必要はない。含まれない場合も必須ではないが、支払う場合の相場は、ホテルのポーターで 1 マナト、レストランでは総計の約 5～10%が妥当。

(10) 水

水道水を飲むことは避け、ミネラルウォーターを飲用する。シャワーや歯磨きは水道水で問題ない。

(11) 電圧

220 ボルト、50 ヘルツ(ヨーロッパと同様の C、F タイプのプラグ)。

(12) 航空便案内

ハイダル・アリエフ国際空港に乗り入れている主な航空会社、発着都市は以下の通り。
(2023 年 2 月現在)

アゼルバイジャン航空(J2)	リヴィヴ、ミンスク、トビリシ、アンカラ、イスタンブール、ドバイ、ロンドン、ベルリン、ミラノ、北京、ジッダ等
ブタエアウェイズ (J2)	トビリシ、イスタンブール、ソフィア等
トルコ航空 (TK)	イスタンブール、アンカラ
アエロフロート (SU)	モスクワ
カタール航空 (QR)	ドーハ
ルフトハンザ航空 (LH)	フランクフルト
エミレーツ航空 (EK) フライドバイ (FZ)	ドバイ
ウィズエアー (W6)	ハンガリー

IV 観光案内

※入場料・営業時間等は予告なく変更される場合があります。

[市内のみどころ]

バクーの街は、城壁で囲まれたイチェリ・シェヘルと呼ばれるシルヴァン王朝時代の街(旧市街)を帝政ロシア時代の街が取り囲み、さらにそれをソ連時代の建物が取り囲むようにして造られている。城壁に沿うように走るイスティグラリエット通りには市庁舎をはじめ主だった官庁や銀行等が建ち並び、噴水広場から東へと伸びるメインストリートのニザミ通りは日常品やブランド品等を取り扱う様々な商店が軒を連ね、多くの人が行き交う。なお、「城砦都市バクー、乙女の塔及びシルヴァン・シャー宮殿」は、2000 年に世界文化遺産に登録されている。バクーF1 グランプリでは、旧市街を取り囲むようなサーキットになっている。

●旧市街(イチェリ・シェヘル / İçəri Şəhər)

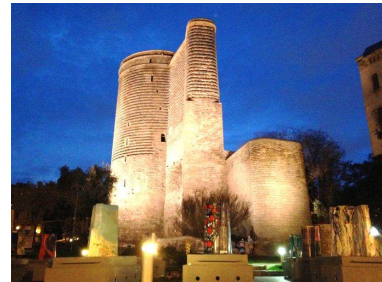
イチェリ・シェヘルとはアゼルバイジャン語で「内城」を意味し、城壁の内側には、干し煉瓦作りの建物や入り組んだ通り等、この地域の都市の伝統的な街並みが保存されている。旧市街内には、世界遺産に登録された乙女の塔及びシルヴァン・シャー宮殿、ハمام(浴場)、モスク、キャラバンサライ(隊商宿)等があり、現在ではキャラバンサライの一部を改装したレストラン、ホテル、土産物屋も建ち並んでいる。

●乙女の塔(グズ・ガラスウ / Qız Qalası / Maiden Tower)

旧市街内の、海岸に面した通り沿いに位置する乙女の塔はバクーのシンボル。この場所に拝火教寺院として最初に塔が建てられたのは前 5 世紀と言われている。現在の塔は要塞として 12 世紀に建て直されたものであり、高さ 30m、塔の外壁は 4~5m の厚みがある。

「乙女の塔」と訳される「グズ・ガラスウ」の名称の由来は、かつてバクーを治めていたモンゴル人の王が自分の娘に言い寄り、悲しんだ娘がこの塔からカスピ海に身を投げた等諸説あるが、城壁の不落を祈念し、「処女の城」という意味を込めて、この名前をつけたという説が有力である。

中は小さな博物館になっており、この地域の歴史がわかるようになっている。この塔の屋上からはカスピ海を望むことが出来る。券売所は入り口前の広場にある。



入場料: 15 マナト

開館時間: 10:00~18:30(4/15~10/14)、9:00~17:30(10/15~4/14)

●シルヴァン・シャーの宮殿

(シルヴァンシャー・サライ / Şirvanşahlar Sarayı Kompleksi / Shirvanshas' Palace Complex)

16 世紀までこの地を支配したシルヴァン・シャー朝の王宮であり、旧市街の一番の見所。シルヴァン・シャー一族はそれまで拠点としていたシャマハという地が 1191 年の大地震で破壊されたことによりバクーへ移り、モンゴル来襲とティムール帝国支配を経た後、当地で繁栄した一族である。

この王宮は、最盛期の王シルヴァン・シャー・ハリルラ 1 世によって 15 世紀に建てられたもので、宮殿、丸屋根のモスク、ディワン・ハーネ(謁見の間)、王族の霊廟、聖者の霊廟、浴場跡、マドラサ(学校)跡等が組み合わされ、ひとつの王宮を形成している。それぞれ造られた年代は微妙に異なるが、全体的な調和が保たれている。

当王宮は一時廃墟となっていたが、1920 年に改修され、宮殿部分は現在博物館になっている。宮殿は至ってシンプルで、壁画もなければモザイクもない土色の宮殿であるのが特徴である。

入場料: 15 マナト

開場時間: 10:00~19:00(4~10 月)、10:00~18:00(11~3 月)

① 宮殿:

現在は博物館となっている宮殿部分。宮殿の中には、ハーレムや応接の間があり、アゼルバイジャンの楽器や民族衣装等が展示されている。宮殿の外壁には銃痕が残っているが、これは旧ソ連時代に新しく開発された拳銃の試射の跡である。

② ディワン・ハーネ(謁見の間):

シルヴァン・シャー王族の謁見に使われた建物。

③ セイッド・イエフヤー・バクーヴィー廟:

哲学者であるセイッド・イエフヤー・バクーヴィーが葬られている。

④ キュー・ギュバ・モスク跡:

モスク兼マドラサ(学校)はシルヴァン・シャー王朝のキュー・ギュバ・ファルハザード2世の治世に建立され、王の子供たちが王宮お付きの学者からここで学んだと推測されている。

⑤ ムラッドの門

⑥ シャー・モスクとミナレット:

1441年に建てられたモスクで、男性用と女性用の祈りの間がある。

⑦ シルヴァン・シャー家の霊廟:

キュー・ギュバ・ハリル王の母親と6歳で夭折した息子のために建てられた霊廟。

⑧ 王族のハمام跡:

1438年に作られた浴場で、26の部屋から成り立っている。

● 金曜モスク (Cümə Məscidi / Juma Mosque)

中世のアゼルバイジャンの社会的、政治的、文化的な生活の中で重要な役割を果たしたモスク。かつて州裁判所はここに位置し、全ての政令はここから発令されていたという。

● ムハンマド・モスク (Məhəmməd Məscidi / Muhammad Mosque)

このモスクに付設されたスヌフ・ガラのミナレットは、城壁内で最古のもの。ソ連時代は全て閉鎖されていたが、金曜モスク等他のモスクと共に近年活動を再開した。

● ムルターニー・キャラバンサライ (Multani Karvansarayı / Multani Caravanserai)

キャラバンサライとは隊商宿のことであり、ムルタン(現パキスタン領)方面からの隊商が用いたことから、その名がついている。かつての中央・南アジアとの密接な関係を物語る。一部はレストラン等に改装されている。

● シャマハ門 (Şamaxı Darvazası / Shamakha Gate)

かつて隊商達を通った、12~14世紀頃に建造された石造の門。旧市街を囲む城壁の一部をなしており、門の上には2匹のライオン(太陽のシンボル)と牛(月のシンボル)が彫られている。

● ハジンスキー邸 (Hacınskinin Evi / Hajinski Residence)

上記乙女の塔の隣にある、1912年に建築されたゴシック様式のマンション。19世紀末~20世紀初めのオイルブーム時にはバクー市内に多くの豪華な邸宅が建てられ、そのうちのひとつがこのハジンスキー邸であった。この邸宅には1944年、仏レジスタンス運動のリーダー、ド・ゴールがスターリンとの会談のためモスクワへ向かう途中に滞在したという逸話がある。現在、邸宅はマンションとして使用されており、内部を見学することはできない。

●絨毯博物館 (Azərbaycan Dövlət Xalça Muzeyi / Azerbaijan Carpet Museum)

2014年8月に新装オープンした絨毯博物館。ユニークな形をしたこの建物は、オーストリア人建築家フランツ・ヤンツ氏によってデザインされた。

この博物館にはクバ、バクー、シルヴァン、カザフ、カラバフとタブリーズ絨毯等の代表的な絨毯や現代のアゼルバイジャン・アート等、約10,000枚の絨毯が展示されており、実際に絨毯を織っている様子も見ることが出来る。

アゼルバイジャンの絨毯文化は、独特の模様と手触りは非常に情緒深く、1本1本の縫い目にこだわった、質・耐久性ともに優れた絨毯として有名。2010年に人類の無形文化遺産に登録された。



入場料: 10 マナト

開館時間: 10:00~18:00(平日) 10:00~20:00(土日) ※月曜休館

住所: Mikayil Useynov 28 電話: 012-497-20-57

ウェブサイト: <http://azcarpetmuseum.az/front/en> (アゼル語・露語・英語対応)

●歴史博物館

(Milli Azərbaycan Tarix Muzeyi / National Museum of History of Azerbaijan)

19世紀末の石油成金、ゼイナラブディン・タギエフの旧宅。膨大な予算が費やされ1902年に完成した。規模が非常に大きく、歴史資料が25万点以上収められている。

1階は考古学、歴史学的資料が展示されており、先史時代からの出土品や装飾品、様々な時代のコイン等が豊富。アゼルバイジャン南部で発掘された35年前とされる人のあごの骨等も展示されている。2階はロシア占領以後に関する展示で、油田開発の歴史等の展示がある。また、隣接しているタギエフ邸記念館の最大の見ものは、王宮のような2階部分の内装装飾で、贅を尽くした「Oriental hall」を中心にタギエフの書斎、寝室、ビリヤード用の部屋等豪華絢爛な部屋が並んでいる。

入場料: 5 マナト(タギエフ邸記念館と併せて)

開館時間: 10:00~18:00 ※日曜休館

住所: 4 Hadji, Zeynalabdin Tagiyev Street 電話: 012-493-23-8

ウェブサイト: <http://azhistorymuseum.gov.az/> (アゼル語・英語対応)

●ニザミ記念文学博物館

(Nizami Gəncəvi adına Milli Azərbaycan Ədəbiyyat Muzeyi / Nizami Museum of Azerbaijan Literature)

1860年設立の旧ホテル・メトロポールの建物を利用した博物館。西側の彫像群はアゼルバイジャン文学史の偉人たち。その内の一人、M.アフンドフ(1812-78)等が19世紀にアゼルバイジャン語の口語での近代文学を創始するまで、文芸の世界ではペルシャ語が優勢だった。アゼルバイジャンが誇る文学者であるニザミ(1141-1209)の作品も全てペルシャ語。文学の歴史にまつわる古写本や文学作品を題材にした細密画等が展示されている。

入場料: 10 マナト

開館時間: 11:00~17:00 ※日曜休館

住所: 53 Istiglaliyyat str 電話: 012-492-18-64

ウェブサイト: <http://nizamimuseum.az/en/> (アゼル語・露語・英語対応)

●国立美術館

(Azərbaycan Milli İncəsənət Muzeyi / Azerbaijan National Museum of Art)

アゼルバイジャン国立博物館の美術部門が 1936 年に創立され、1937 年に国立美術館として開館。現在 1 万 2 千点に及ぶ美術作品、絵画等が 42 部屋に渡って展示されている。建物自体は、19 世紀末に建てられた石油富豪の元邸宅である。

美術館にはアゼルバイジャンに関する作品のみならず、ヨーロッパ、ロシア、トルコ、イラン、日本、中国等の国々の作品も展示されている。

入場料: 5 マナト 開館時間: 10:00~18:00 ※月曜休館
住所: Niyazi St., 9/11 電話番号: 012-492-57-11

●現代美術館

(Müasir incəsənət muzeyi/Azerbaijan Museum of Modern Art)

ポートバクーの近くにある美術館。20 世紀半ば以降のアゼルバイジャンにおけるアバンギャルド芸術作品を中心に展示している。

ヨーロッパの古典作品と前衛芸術家(ピカソ、シャガール、ダリ等)の作品のほか、アゼルバイジャンの古典的な造形美術作品も展示されている。館内にはカフェやレストラン、書店も併設されている。

入場料: 5 マナト 開館時間: 11:00~20:00 ※月曜休館
住所: 5 Yusuph Saforov 電話番号: 012 490-84-04
ウェブサイト: <http://www.moma.az/en> (アゼル語・英語・露語対応)

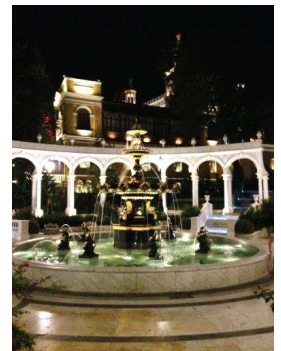
●フィルハーモニー・ホール

(Müslüm Maqomayev adına Azərbaycan Dövlət Filarmoniyası)

Azerbaijan State Academic Philharmonic Hall)

国内外の音楽家による公演の他、外交団主催のコンサート等がしばしば行われるコンサートホール。料金は公演内容により異なるが、10 米ドル前後が多い。

住所: 10 Istiglaliyyat str.
電話: 012-497-29-05/497-36-09



●国立人形劇場

(Abdulla Şaiq adına Azərbaycan Dövlət Kukla Teatrı / Baku Puppet Theatre)

臨海公園内にある建物は、1901 年に石油で成功したムサ・ナギエフがポーランド人の建築家に造らせたもの。20 世紀初めは富裕層の豪華な服の品評会が行われていた。人形劇場となったのは 1994 年からで、俳優の中にはフランスでの人形劇祭で受賞したものもあり、子供だけでなく大人も楽しめる。アゼルバイジャン語とロシア語それぞれ演目がある。開催日時は事前に確認するのが望ましい。

住所: 10 Neftchilyar Ave 電話: 012-492-64-35/492-64-25

●オペラ・バレエ劇場

(Azərbaycan Dövlət Akademik Opera və Balet Teatrı / Azerbaijan State Academy)

歴史を感じさせる重厚な造りの劇場。アゼルバイジャンと西欧の演目を中心としたオペラ・バレエの公演が行われている。料金は公演内容によって異なるが、10~30 マナトと日本に比べてお手頃。

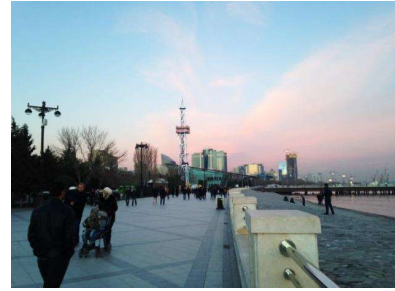
住所: 95, Nizami str. 電話: 012-493-16-51/493-31-88

※劇場、コンサート、サッカーの試合、各種イベントのチケットは会場の窓口で購入するほか、Ticket.az というサイト、もしくは各種モールに設置されている Ticket.az の窓口で購入することが出来る。

●海岸公園

(Dənizkənarı Milli Park / Seaside Park)

カスピ海に沿って弧を描くように続く公園。緑が多い絶好の散歩道で園内にはいくつものカフェやチャイハナ(喫茶店)の他、子ども向けの遊園地もあり、市民の憩いの場となっている。公園沿いには 2010 年にオープンしたショッピングモール「パーク・ブルバール」がある。



●殉教者の小路 (Şəhidlər Xiyabanı / Alley of Martyrs)



1990 年 1 月 20 日のソ連軍の侵攻による犠牲者及び 1991～1994 年のナゴルノ・カラバフ紛争犠牲者の追悼モニュメントと墓地がある。366 つの墓標に刻まれた犠牲者の肖像の中には幼い少女のものも含まれ、この国の辿った悲しい歴史を感じさせられる。国旗が掲げられている入り口付近には花屋があり、墓標の前には献花が絶えない。丘の上に位置しているため、バクー市街やカスピ海を一望することができる。アズネフチ広場(海岸公園近く)とケーブルカーで行き来可能。

ケーブルカー料金: 片道 1AZN 電話: 012-452-4407
営業時間: 10:00～22:00 (13:00-14:00 を除く) ※月曜運休

●ヤシル・バザール(Yaşıl Bazar / Yasir Bazar)



新鮮な野菜、果物、ナッツ類、乳製品、肉類、茶葉、スパイス等、食品を豊富に取り扱う数多くの店が軒を連ねており、早朝から人が集まる。

●カスピ海クルーズ

海岸公園にあるショッピングセンター「パーク・ブルバール」前から「EuroVision 2012」が行われたクリスタルホール付近までの往復するコース。カスピ海側から眺めるバクーはひと味違う。夏季限定。

●テレビ塔 (Azeri TV Tower)

1996 年に建てられたテレビ塔は、高さが 310mあり、最上階がレストランになっている。同レストランは 360° 回転するため、お茶や食事を楽しみながらバクーの街並みを一望することが出来る。



●フレイムタワーズ (Flame Towers)

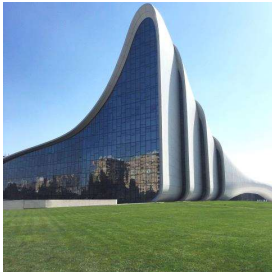
総工費 350 億円をかけて 2012 年に完成した 3 つのビル群。アゼルバイジャンの国名が「火の国」の意味をもつことから、国のシンボルである炎を象ったデザインになっている。ビルには Fairmont Hotel、住居、オフィスが入っている。夜になると、1 万枚の LED パネルが張られたこの建物がライトアップされ、炎やアゼルバイジャンの国旗等が映し出される。



●ヘイダル・アリエフ・センター

(Heydər Əliyev Mərkəzi / Heydar Aliyev Center)

ヘイダル・アリエフ前大統領の名を冠する同施設は、2012 年に完成したバクーのシンボルとなる建築物である。主に展覧会やコンサート等の文化活動に使用されている。設計は、東京オリンピックに向けた新国立競技場設計案によって日本でも有名になったイラク出身の女性建築家ザハ・ハディッド氏。上空から見るとヘイダル・アリエフ元大統領のサインの形になっているという。1 階ホールには草間彌生氏の作品が展示されている。



入場料(常設展): 15 マナト

開館時間: 11:00~19:00(火~金)

11:00~17:00(土日) ※月曜休館

住所: 1 Heydar Aliyev Ave. 電話: 012-492-18-64

ウェブサイト: <http://www.heydaraliyevcenter.az/#main>

(アゼル語・英語対応)

【郊外のみどころ】

●ビビヘイバット・モスク (Bibiheybət məscidi / Bibi-Heybat Mosque)

バクー市内のシーア派モスク。13 世紀にシルヴァン朝のファルフザドの命令によりイスラム教開祖・預言者ムハンマドの子孫であるウケイマ婦人のお墓の上に建てられた。

ウケイマ婦人は難病治癒の力をもっていたとの伝説があり、このモスクはイスラム圏及びアゼルバイジャンの主要な聖所となっている。1936 年のソ連のボリシェヴィキによる破壊をはじめ、過去幾度も破壊され、現在の建物は 1994 年にアリエフ元大統領の命令で改装されたものである。

当モスク内には、非常に力のある聖人の墓があるため、隣国のイラン、トルコ、イラク、タジキスタン、パキスタン等からも巡礼者が参詣する。フランスの有名な小説家アレクサンドル・デュマも当モスクを訪れている。

● 拝火教寺院（アテシュギヤーフ / Atesgah / Ateshgah Temple）

18 世紀、この地に商人として住んでいたパルシーと呼ばれるインドのゾロアスター教徒によって建てられた寺院。かつては、この地域でも地表に沸く天然ガスが自然発火することがあり、火を崇めるゾロアスター教徒にしばしば聖地とみなされた。また、インド北部と現在のトルコ、シリア地方を結ぶルートの中継地として栄え、僧や信徒の往来があったことがわかっている。19 世紀後半には既に宗教施設としての役割を終えて観光スポットの一つとなったが、今でもインドやイランで生活するゾロアスター教徒はこの地を聖地と見なし、時には小規模ながら礼拝に来るという。



同寺院は、「永遠の炎」を中央に据え、礼拝用の広場とその周りの石造りの僧房で囲まれた造りになっている。僧房は現在は博物館となっており、展示物から当時の拝火教陣の様子をうかがえる。なお、この「永遠の炎」は、2015 年に開催された欧州競技大会の聖火のトーチの火として使用された。

入場料: 4 マナト
開場時間: 9:00～17:30

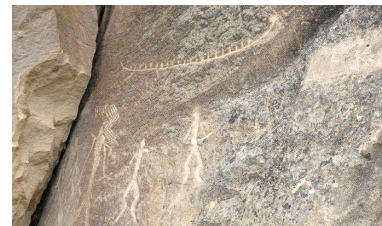
● ゴブスタン（Qobustan / Gobstan）

バクーの南西約 60km 地点に広がる石器時代からの遺産で、その文化的景観は 2007 年に世界文化遺産に登録された。

100 km に渡り無数の洞窟が分布しており、調査によれば、この地には 1 万年前から人が生活していたという。岩には太古の人類や動物、戦い、宗教的な舞踏、闘牛、武装した漕ぎ手の乗る小舟、槍を携えた戦士、ラクダの隊商、太陽や星等が描かれており、そこに暮らした当時の人々の様子を窺い知ることができる。また中にはローマのポンペイウスがこの地へ遠征した際に彼の部下が残した落書きもあるとされる。



同遺跡の入り口付近にあるベンチほどの大きさの石は、ガワルダシュと呼ばれるその反響性を利用した石の楽器があり、叩くとおもしろい音がする。



この遺跡に向かう途中の博物館及び岩山遺跡一帯へ入るには入場券を購入する必要がある。博物館では、ゴブスタンの歴史や岩絵の解釈について英語で展示説明がなされている。

また、ゴブスタンの遺跡から少し離れたところには、泥火山が存在する。地下から噴出する天然ガスによって泥が泡立ち、マグマがたぎっているように見える。

入場料: 10 マナト（博物館入館料込み）
開場時間: 10:00～17:00
ウェブサイト: <http://www.gobustan-rockart.az/en/main/>（アゼル語・露語・英語対応）

●燃える丘（ヤナル・ダグ / Yanar Dağ / Yanar Dagħ）

バクーの北 25 km、車で約 30 分のビナガディン地区にある。ヤナル・ダグとは「燃える丘」という意味で、石油採掘場近くにある小高い丘の地中で生成された天然ガスが地表の割れ目から噴出し、それが自然発火することで 2000 年もの間絶えることなく燃え続けていると言われている。

（ 入場料：9 マナト
開場時間：10:00～18:00 ）



●ピンクの湖（マサズイル・ギュル/Masazır Gölü / Masazir Lake）



バクーの北、車で 30 分程の距離に位置する湖。この湖の水に含まれるヨード成分のため、湖面がピンク色のように見えることで有名。時間帯によっては紫色に見えたりもする。早朝が一番ピンクに見えるという。季節や時間によっては、ピンクに見えないこともある。

湖では塩の生産が盛んで、湖の周りにはたくさんの塩山がある。現在は柵で囲まれ、湖の近くには行くことができない。

●ガラ歴史民俗保護区

(Qala Qoruğu/Gala State Historical Ethnographic Reserve)

バクーから東に 40km 程の距離に位置する。3 つの博物館があり、アゼル語・露語・英語・独語・仏語によるガイドが受けられる。古代アゼルバイジャンの壁画・土器・武器・装飾品等が展示されており、古代から中世のアゼルバイジャンにおける生活を知るのに効果的である。

また、同地にて 2012 年より「From Waste to Art」という展示が行われている。芸術作品を通じて環境問題に関心を寄せてもらうことを目的としており、アゼルバイジャンを含む様々な国の作家による、廃棄物を材料とした作品が展示されている。

（ 電話番号：012-464-4111

ウェブサイト：www.tamizshahar.az（アゼル語・英語対応）



●五本指（Beş Barmaq、ベシュ・バルマク）

バクーより北（グバ方面）へ 100km 弱の街道沿いにそびえる標高 382m の岩山。その印象的な形状からアゼルバイジャン語で「五本指」と名付けられている。イスラム教の聖地、パワースポットとして有名で、山頂の最奥部にあるモスク（小さな岩室）では祈りが捧げられている。山麓の駐車場付近にはバーベキュー屋台が並び、乗馬も楽しめる長閑な雰囲気。そこから階段で山頂へ上ると、カスピ海の素晴らしい眺望が開ける



【参考】

アゼルバイジャン観光局 (Azerbaijan Tourism Board)

ウェブサイト : Azerbaijan Travel < <https://azerbaijan.travel/> >

Facebook／Instagram／Twitter : Experience Azerbaijan @ExperienceAZE

V ホテル

- HYATT REGENCY BAKU (☆☆☆☆☆)
住所: 1033 Izmir St. 電話: 012-490-1234
- HILTON BAKU HOTEL (☆☆☆☆☆)
住所: 1 Azadliq ave. 電話: 012-464-5000
- J.W MARRIOTT BAKU (☆☆☆☆☆)
住所: 674 Azadliq square 電話: 012-499-8888
- COURTYARD BY MARRIOTT (☆☆☆☆☆)
住所: M. Fuzuli and A. Topchubashov Streets 電話: 012-310-4040
- FAIRMONT BAKU (☆☆☆☆☆)
住所: Mehdi Huseyn Street 1A 電話: 012-565-4848
- FOUR SEASONS HOTEL BAKU (☆☆☆☆☆)
住所: 1 Neftchilar ave. 電話: 012-404-2424
- INTERCONTINENTAL (☆☆☆☆☆)
住所: Zarifa Aliyeva Street 電話: 012-525-9933
- PARKSIDE HOTEL & APARTMENTS (☆☆☆☆☆)
住所: 1 Azadliq Ave.31 電話: 012-493-0193
- PARK INN RADISSON (☆☆☆☆☆)
住所: 1 Azadliq ave. 電話: 012-490-6000
- HOLIDAY INN BAKU (☆☆☆☆☆)
住所: Keykab Khanim, Safaraliyeva Street 5 電話: 012-599-1100
- THE LANDMARK HOTEL (☆☆☆☆☆)
住所: 90A Nizami Street 電話: 012-465-2000
- FLY INN BAKU (☆☆☆☆☆)
住所: Heydar Aliyev International Airport 電話: 012-437-4949
- SHAH PALACE HOTEL (☆☆☆☆☆)
住所: Boyuk Qala str.47, Icheri Sheher 電話: 012-497-0405
- SULTAN INN BOTIQUE HOTEL (☆☆☆)
住所: Boyuk Gala 20, Icheri Sheher 電話: 012-437-2305

VI アゼルバイジャンの料理

●主食

タンディールと呼ばれる釜の内側で焼くパン。薄い生地を焼いた、ラヴァシュといわれるパンもある。インドのナンと形状が似ている。野菜や肉等を包んで食べることが多い。



●ドウシュベレ

アゼル風小餃子の入ったブイヨンスープ。



●ドルマ

米や羊肉の挽肉をブドウの葉で包んだ料理。



●ドヴガ

ヨーグルト料理の一種。香菜やお米等が入っているスープ。さっぱりした味である。温かいものと冷たいものの両方がある。

●サラダ

アゼルバイジャンの前菜では、トマト、キュウリ、ネギ、香草等を切らずにかつドレッシングなしでそのまま食べることが多い。アゼルバイジャンの野菜は、野菜本来の味が引き立っている。

●ドネル

羊肉の薄切り肉を重ねて炙った部分を表面から削り、トマトソースやマヨネーズを塗ったパンにキュウリ、トマト、タマネギ、香菜等を挟んで食べるファストフード。

●サジ

肉や野菜の鍋焼き料理。

●パフラヴァ

菱形のお菓子。クルミ、アーモンド、ヘーゼルナッツ等を挟んで生地を何層にも重ね、焼き上げてから濃い大量のシロップをかけて作られる。

●チャイ

いわゆる紅茶。
食事の最後にチャイを飲む習慣がある。

●ケバブ

羊肉、鶏肉、トマト、茄子、ジャガイモ、ピーマンを塩と胡椒で味付けして炭火で焼いたもの。一般的な料理



●プロフ

羊肉や松の実、野菜、栗等の炊き込みご飯。



●クタブ

アゼルバイジャン風クレープ。よく食べられるのは、カボチャ、羊肉、香草が包まれたもの。



VII レストラン

1 アゼルバイジャン料理

- Karavansaray
住所: 11 Gala St., Icheri Sheher 電話: 012-492-6668
- Shirvansah
住所: 86 Sardar Safarov St. 電話: 012-595-0901
- Mugam Club
住所: 9 H Rzayeva St., Icheri Sheher 電話: 012-492-3176
- Sultan Inn (Terrace Garden)
住所: 20 Boyuk Gala St., Icheri Sheher 電話: 012-437-2306
- Sumakh
住所: 20/22 Khojali Ave. 電話: 012-480-2112
- Chayki
住所: Neftchiler prosp. 24/1 電話: 012-504-6464
050-294-6464

2 ジョージア・トルコ・ロシア料理

- Anadolu (トルコ料理)
住所: 3/5 Rasul Rza St. 電話: 012-498-1646
- Gunaydin (トルコ料理)
住所: 51 Khatai St. 電話: 012-565-2572
- Mari Vanna (ロシア料理)
住所: 93 Zarifa Aliyeva Ave. 電話: 012-404-9595
- Mama Jan (ジョージア料理)
住所: 5 Aleksandr Pushkin 電話: 055-500-7172

3 アジア料理

- Jasmine (中華料理)
住所: Bridge Plaza, 3rd floor, 24 Bakikhanov St. 電話: 012-404-5404
- Hong Kong - Chinese Restaurant (中華料理)
住所: 16B Shovkat Alakbarova 電話: 050-307-3113
- The Great Wall/長城飯店 (中華料理)
住所: 12 Pushkin St. 電話: 012-498-9388
050-559-9888
- KATSU/勝 (日本料理)
住所: 25b Hagani St. 電話: 012-493-8170
- Chio-Chio-san (日本料理)
住所: 98 Shamsi Badalbeyli St. 電話: 012-555-1050
- Chinar (アジア料理)
住所: 1 Shovkat Alakbarova、 電話: 012-404-8211
- Maharaja (インド料理)
住所: 6/8 Sabail, Abdulkarim Alizadeh St. 電話: 012-492-4334
- Flavors Fusion Cuisine (インド料理)
住所: Inshaatchilar prospekti, Baku 電話: 050-754-7316

●Masti Baku (Marriott Boulevard) (インド料理等)

住所: 4C Xəqani Rüstəmov, Bakı

電話: 050-442-0500

4 その他

●Scalini (イタリア料理)

住所: 2 Bakikhanov St.

電話: 012-598-2850

●TOSCA (イタリア料理)

住所: 127/1 Neftchiler Ave.

電話: 012-404-8206

●Dolce Vita (イタリア料理)

住所: Aziz Aliyev st. 19

電話: 050-273-9919

●Oro Nero Bar & Restaurant (イタリア料理)

住所: JW Marriott Absheron Baku 2nd floor,
674 Azadliq Square.

電話: 012-499-8888

●Sky Grill Hilton Baku (西洋料理)

住所: Hilton Hotel 24th floor, 1B Azadlig Ave.

電話: 012-464-5000

●Mezzo (西洋料理)

住所: Hyatt Regency Baku 1st floor, 1033 Izmir St.

電話: 012-490-1234

●Prive Steak Gallery Baku (ステーキ)

住所: Sabali District, Xəqani Str., 14/A

電話: 012-598-0555

●PAUL'S BAKU (西洋料理・ステーキ)

住所: 10 Nigar Rafibayli St.

電話: 055-520-0092

●Mangal Steak House (西洋料理・ステーキ)

住所: Aydin Nasirov Str. 3

電話: 012-505-1011

●Paris Bistro Baku

住所: 1/4 Zarifa Aliyeva St.

電話: 012-404-8215

●Baku TV Tower Restaurant (アゼルバイジャン・西洋料理)

住所: 12 Academician Abbaszade St.

電話: 012-537-0808

●Halikarnas Balıkcısı (魚料理)

住所: Baki yolu Qum adası, Hövsan

※上記レストランは、あくまでも参考情報として掲載している点ご了承ください。

VIII お土産

1 キャビア

アゼルバイジャンで最も人気の高いお土産がカスピ海産のキャビアである。しかし、近年の密漁禁止政策の一環として、その国外への持ち出しには厳しい制限(1人125gまで)が設けられている。キャビアは市内のスーパーマーケットの他、タザ・バザール、空港内免税店で購入可能。なお、キャビアは親魚であるチョウザメの種類によって値段が異なる。1缶約110gで480マナト程度(約280米ドル)が相場。

2 アゼルバイジャンのお酒

●アゼルバイジャンワイン

コーカサス地域はワイン発祥の地とも言われ、考古学の研究によると、アゼルバイジャンの一部の地域では紀元前3千年末～2千年始め頃にはワイン醸造が行われていたとされており、コーカサス有数の上質なワインの産地として知られている。スーパーやワイナリー等で購入可能。

有名な銘柄は、Hillside、SAVALAN、Meysali 等。値段は銘柄にもよるが、1 本約 20～40 マナト(約 12～25 米ドル)。

●ブランド (通称「アゼルバイジャン・コニャック」)

コニャックと言えばアルメニアを想像する方が多いが、アゼルバイジャン産のものも絶品である。2014 年のロシア最大食品生産専門展示会 PRODEXPO では、Gold Baku という銘柄が“ベスト・プロダクト・オブ・ザ・イヤー”を受賞した。その他の銘柄としては、フランス語の“Merci Beaucoup(メルシー・ボクー: ありがとうの意)”を振った Mersi Baku が有名。

3 アゼルチャイ (アゼルバイジャンのお茶)

アゼルバイジャンでは食後には必ずと言っていいほどチャイを飲む。国民的な飲み物であるチャイの茶葉やティーバッグはスーパー等で購入することが出来る。また、最近ではお土産用として乙女の塔の形の入れ物に入ったアゼルチャイの茶葉も売られている。ティーバッグは 25 袋入りで約 1.5 マナト(約 1 米ドル)、茶葉は 100g で約 2 マナト(約 1.5 米ドル)。

4 民芸品等

絨毯、置物、絹製スカーフ等もお土産に適している。絨毯はテーブルセンター用の小さな物から壁一面に掛けられるような大きなサイズまで様々な種類が売られている。置物は乙女の塔をかたどった物や民族衣装を着た人の模型等、いかにもアゼルバイジャンらしい品が多い。絹はアゼルバイジャン北部シェキ地方の特産品。絹スカーフは綿との合成なら比較的手頃な価格。

●旧市街内

旧市街内、乙女の塔入り口近くには、出店や主に絨毯を扱う土産物店が並んでいる。これらの店にはティーグラスセット、水差し等の置物等の民芸品が売られている。隊商宿を改造したレストラン「ムガムクラブ」の 2 階の店にはスカーフ等布製品の品ぞろえが良い。

●噴水広場近く

噴水広場に数件の土産物を扱う店がある。絵画、置物、バッジ、アクセサリ等、商品は多岐にわたる。ロシアやトルコのお土産に似たものもあり、見ているだけでもおもしろい。露天商は少ない。

●空港内

空港の発着ロビー階(2 階)には小さな土産物品店があり、絵葉書、人形、木枠付きの小さな絨毯等が売られている。品数は多くないが、店内はこじんまりとまとまっている。

※お土産の持ち出し

絨毯、絵画、民芸品等で骨董品的価値のある物品及び楽器(骨董品であるか否かを問わず)をアゼルバイジャン国外へ持ち出す際には指定機関発行の証明書が必要となる。国外へ持ち出す品物を下記指定機関へ直接持参し、証明書を発行してもらう。なお、証明書の発行には日数を要するので留意すること。

○絨毯: 絨毯博物館

住所: 28 Mikayil Useynov St. 電話: 012-497-2057

○民芸品・楽器: 絨毯と民族工芸博物館

住所: 123a Neftchilyar Ave. 電話: 012-498-6972 / 598-4479

○絵画: 国立美術館

住所: 9/11 Niyazi St. 電話: 012-492-5711

IX アゼルバイジャンの著名人・小話

●アゼルバイジャン前大統領 ヘイダル・アリエフ

アゼルバイジャン前大統領(1993～2003)で、同国の国父的存在。現大統領のイルハム・アリエフは長男。ソ連時代、アゼル共産党第一書記、アゼル KGB 議長、ソ連邦政治局員等を務めた。抜群の記憶力、洞察力、カリスマ性を誇った。米国オハイオ州の病院で死去。ヘイダ

ル・アリエフの名のついた建物や通り、肖像画は街中に多く目にすることができ、前大統領の存在の大きさが伺える。

●日本とも関わりをもつソ連のスパイ ゾルゲ

1895 年、バクーで石油技師として働いていたドイツ人の父とロシア人の母との間に生まれたゾルゲは、3 歳でドイツに移住するまで同地で過ごした。1933 年に独「フランクフルター・ツァイトウング」紙特派員として来日し、日本国内で諜報活動を行うが、1941 年治安維持法等により逮捕されて巣鴨刑務所に拘留され、1944 年に死刑に処された。東京・多磨霊園に葬られている。

●スターリンが投獄されていた監獄

バクーには、スターリンが投獄されていたバイロフ監獄がある。この監獄はもともと 1820 年に兵舎として建てられた建物であったが、1888 年からは監獄として使用されることとなった。スターリンは、1908 年と 1910 年の二度に渡って投獄されているが、当監獄からの脱獄に成功した者は 1994 年までスターリンだけであった。2009 年に当監獄は取り壊され、現在この場所はレストラン(Mangal Steak House)となっている。

●アゼルバイジャンにおける国際的な動き

経済発展に伴って国際舞台での存在を高めつつあり、2011 年には初めて国連安保理非常任理事国(任期 2012～13 年)に選出された。最近では 2019-2023 年に非同盟運動(NAM)の議長国を務めている。

また、様々な国際会議、イベント、競技大会の開催誘致に積極的である。アジア開発銀行(ADB)総会(2015 年)、ユネスコ総会(2019 年)が開催され、欧州歌謡祭「ユーロビジョン」(2012 年)、欧州競技大会(通称:ヨーロッパ・オリンピック)(2015 年)、イスラム諸国競技大会(2017 年)等をホストし、UEFA EURO2020 の開催地の一つにもなった。F1 グランプリ(2016 年～)、柔道グランドスラム等が毎年開催されている。

●豊富な石油・ガス資源

アゼルバイジャンの石油開発の歴史は古く、1546 年に世界最古の石油井による採掘が行われた。1902 年には、バクー沖のカスピ海上で世界初の洋上石油生産が開始された。外国資本によるバクーの石油生産は、20 世紀初頭には世界の全生産量の半分を占めていた。

ソ連崩壊後、カスピ海沖の石油開発が進み、2006 年からはBTC パイプラインによって ACG 油田の石油が輸出されており、石油開発がアゼル経済活況の柱となっている。日本企業もカスピ海の ACG 油田開発に参画している。

また、天然ガスについては、カスピ海沖のシャフ・デニズ・ガス田で生産されるガスが「トルコ横断パイプライン(TANAP)」及び「アドリア海横断パイプライン(TAP)」(通称:「南ガス回廊」)を経由して欧州に輸出されている。

●原油風呂で皮膚病や神経痛もスッキリ？

ナフタラン市(アゼルバイジャン中部)には、皮膚病や神経痛が治る“奇跡の風呂”と呼ばれる原油風呂がある。原油は真っ黒で粘着性があり、ベトトリと身体に付いた原油を完全に取るのは難しい。入浴に挑戦する場合は汚れても良い下着や洋服を着用していくことが無難。原油風呂はバクー市内でも体験することが出来る

○バクー市内で原油風呂が体験出来る場所

名称:Naftalan Sağlamlıq Mərkəzi

電話番号:012-448-3766

場所:Baku, Sabail, M.Mushfig str. (Massiv) 1

X 注意事項

1 税関申告

10,000 米ドル相当額未満の現金は、税関への口頭申告で持込み可能。持込み額が 10,000 米ドル相当額以上の場合には、「個人簡易申告書」と「通関証明書」が必要となる。いずれの書類も税関で記入・提示し、証明印を税関担当者に押してもらい、出国まで保管すること。これらの書類は、出国時に現金を持ち出す際に必要となる。

10,000 米ドル相当額未満の現金は、税関への口頭申告で持出し可能。入国時に申告して持ち込んだ現金は、50,000 米ドル相当額未満であれば、証明印が押印された「個人簡易申告書」と「通関証明書」を税関に提出することにより、持ち出すことが可能。50,000 米ドル相当額を超える現金は持ち出すことができないため、銀行から送金する等の対応が必要。万が一、書類を紛失した場合、再発行されないため、銀行から送金する等の措置が必要となる。

送金については、2017 年より外貨送金金額制限に関する法律が導入され、海外口座への送金限度額は、1 日 1,000 米ドル相当額まで、1 ヶ月あたり 10,000 米ドル相当額となっている。

2 治安

バクーの治安は比較的良いが、夜間は特に人通りの少ない地域の一人歩き等を避けることは言うまでもない。また、バザールや地下鉄といった場所ではスリ、置き引きが発生しているため十分な注意が必要である。

犯罪の他、日本人が野犬に噛まれるといった被害が報告されている。当地では飼い犬の多くも予防接種を受けていないため、野犬のみならず飼い犬にもむやみに近づかない方が良い。（詳細は、外務省の海外安全ホームページを参照のこと。）

3 交通マナー

バクーの交通マナーは良好とはいえない。道路には陥没している箇所も多く見られるので、自動車の運転をする際には慎重な運転を心がけること。急な追い越し（センターラインをオーバーする）、割り込み、ウィンカーの不使用、急発進急停車が頻繁に見られるほか、歩行者も、信号無視や横断歩道のない場所での横断を日常的に行っているため注意が必要。信号がなく、車（運転手）が歩行者優先で自主的に停止することになっている横断歩道が多く、歩行者が急に渡り始めることも多いので特に注意が必要。また、歩行の際には信号に注意することはもちろん、周囲の安全を十分に確認した上で横断すること。

4 写真

建物では、大統領府をはじめとする政府関係及び軍関係の建物（ガバラの旧ロシア軍施設も含む）の近くからの撮影は禁じられており、地下鉄構内等での撮影は許可が必要である。石油関連施設・設備等の撮影も禁止されている。また、女性に限らず人物を撮影する際も、一言断ってから行うように心掛けたい。

5 緊急時の連絡先

緊急時の連絡先は下記のとおり。

消防署：101

警察署：102

救急車：103

International SOS 病院 : +994-50-212-6921 （携帯電話）
 : +994-12-489-5471 （代表電話）